



ラオス国ポリオワクチン支援活動 2025.10 活動報告

いつも古着 de ワクチンをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

古着 de ワクチンは専用回収キットを1口ご購入につき5人分のポリオワクチンを寄付させていただいております。サービス開始から15年が経ち、皆様のご支援のおかげで寄付できる人数が大きくなったことを受けて2025年4月ラオス人民民主共和国政府保健省と直接協定を結ぶことが実現いたしました。直接協定を結ぶことで、無駄を省きよりスムーズにラオス国の子どもたちに必要なワクチンが届けられるスキームとなりました。今回は初の古着 de ワクチン運営事務局単独での支援活動となります。現地同行はラオス国政府保健省「母子保健センター」チームの皆さんです。約1週間の現地滞在の様子、ラオス国の「今」現状をお届けいたします。皆さまのお部屋のお片づけが世界中の笑顔を創ります。

赤ちゃんにポリオワクチンがしっかり届いている様子をご覧ください。



〈ラオス国について〉



インドシナ半島に位置するメコン地域諸国のひとつであり ASEAN 唯一の内陸国です。国土のほとんどが山岳地帯であり首都ビエンチャン周辺とメコン川流域を中心に平地が広がっています。

首都：ビエンチャン 言語：ラオス語 民族：ラオ族を含む 49 民族

宗教：仏教（人口の約 64.7%）

面積：24 万 km² 人口：約 730 万人（日本約 60 %の国土面積に埼玉県の人口）

ポリオ状況：2017 年ポリオフリー 宣言

〈古着 de ワクチンから参加のメンバー紹介〉



A マコ:古着 de ワクチン運営事務局 営業本部長	B スレイマオ:カンボジア直営センター スタッフ
C スパナ:カンボジア直営センター スタッフ	D レイ:カンボジア直営センター 責任者
E ユウスケ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ	F エミリ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
G トシヒロ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ	H ホット:カンボジア直営センター スタッフ

今回の支援活動は日本スタッフ4名、カンボジア直営センターから4名参加しました。

カンボジアスタッフ3名は障がいを抱えるスタッフです。

スレイマオは事故の影響で右足を切断し現在は義足で生活をする24歳です。将来の夢は社会の先生！

スパナは生まれつきポリオの障がいにより右足が不自由で歩行補助機具を装着して生活をしています。今回の支援活動は彼女にとって初めての海外経験となりました。食べることが大好きとっておちゃめな21歳！

レイはカンボジア直営センターの責任者です。小さいころワクチン注射がうまくいかず左足に後遺症が残りました。2人の男の子のママです！

3名は、カンボジア古着 de ワクチンセンターのお店のコンセプトである「支援される側が支援する側に」の体現として参加を立候補しました。自分と同じ苦しみを味わう子供たちが1人でもいなくなるようにという願いを込め強い思いをもってポリオワクチン接種の現場に向かいました。彼女たちの支援活動での活躍にもご注目ください。

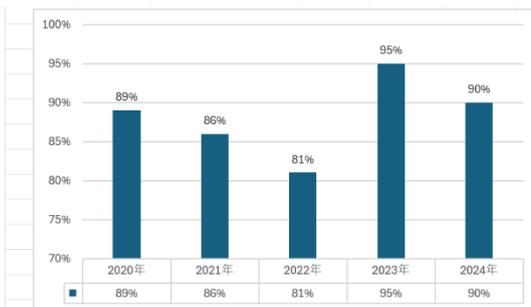
活動の一部では姉妹シリーズ「着物 de お針子」で協業しているラオス国女性障がい者支援団体の理事長とスタッフも参加しました。

〈今回の支援活動で訪れた県や村の位置関係〉



今回の支援活動は首都ビエンチャンから飛行機で1時間半ほど行った先にあるパクセーという街を中心に行いました。訪れた3つの村はパクセーからガタガタ道を2時間ほど車で揺られた先にあります。決してライフラインが完璧に整っているわけではない村でどのようにワクチンの温度管理がなされて、赤ちゃんまで届いているのかをしっかりとレポートさせていただきます。番外編として、ラオスの世界遺産「ワットプー遺跡」や2つの美しい滝で有名な「タートファーン」の様子もお届けいたします。

〈ラオス国ポリオワクチン接種率 年別〉



ラオスでのポリオワクチン接種周期は1回目6週目・2回目10週目・3回目14週目となっています。

2022年コロナ後から接種率は高い水準で維持されていることがわかります。

※21-22年はコロナの影響で国がロックダウンしたこともあり接種率が低下している。

〈古着 de ワクチンがポリオワクチンになるまでの流れ〉





このように、皆様の古着 de ワクチンを通したお部屋のお片づけが、開発途上国の子どもたちの命と健康を守るポリオワクチンへ生まれ変わっています。

ここからは今回の支援活動で訪れた各村での状況をお伝えいたします。

今回の活動のラオス国政府保健省同行者は下記 2 名に加え、Gavi チームの方々も同行されました

- 保健省国家予防接種プログラム副長 ドクターコンサイ氏
- 母子保健局副所長 ジャンサワーン氏
- Gavi チームメンバー

※Gavi とは、Gavi アライアンス (Gavi, the Vaccine Alliance) は、子どもの予防接種プログラムの拡大を通じて、世界の子どもの命を救い、人々の健康を守ることをミッションとしたアライアンス (同盟) であり、民間セクター、公共セクターがともに参加する革新的なメカニズムである。ワクチンと予防接種のための世界同盟 (Global Alliance for Vaccines and Immunization)



〈ポンサード村ワクチン接種（アウトリーチ）会場〉

アウトリーチとは、街から離れた場所で病院などが無い村（支援を必要とする人の元）へ看護師やボランティアがワクチンを運び村へ出向くことを言います。

ポンサード村の接種会場は村長さんの家の敷地内で行われていました。



〈ボンサード村保健センター〉

こちらの保健センターは 11 か所の村の管轄をまかされていました。11 か所の内 2 か所は農耕機械を使いながら山を越えて 1 泊 2 日でアウトリーチサービスを行うような場所にあります。2025 年度はポリオワクチン接種 89 人まで達成し順調に推移しているとのことでした。

冷蔵庫ではしっかりとポリオワクチンが冷却保存されて管理されており、看護師がワクチンを運ぶ際は温度が下がらないように（接種時適温 2 度～ 8 度）クーラーボックスに入れて徒歩やバイクで接種会場に向かいます。訪れた日は台風の影響もありスコールが続きましたが、ボランティアスタッフの皆様は天気関係なくアクティブに活動していました。



〈ノンビエン村保健センター〉

チャンパサック郡ノンビエン村保健センターは医療室が 3 部屋ほどの小さな保健センターです。医療スタッフは 8 名（内 5 名看護師・3 名はボランティアスタッフ）体制で、周辺の 17 の村・約 14,000 人の健康管理を担います。産婦人科として出産（実費 3 万キープ＝約 210 円）にも対応しています。帝王切開には機器や人材が足りず、緊急時には郡病院へ搬送するオペレーションとなっています。

村の保健センターの財政状況は厳しく、かかる費用のほとんどは政府からの支援金だよりとなっており、保健センター長のお給料は 1 か月 270 万キープ（日本円で約 19,000 円）です。

ノンビエン村の 1 歳未満の幼児は 254 人おり、現在 172 人接種完了で約 67%の接種率を達成している状況とのことでした。

働いていたボランティアスタッフのコメント：「ラオス国の財政状況が厳しいため、看護師として働きたくても欠員補充以外に募集があまりないのが現状です。それでも夢を持ち、学びを深めたい若者がボランティアとして各地のヘルスセンターなどでほぼ無給で働いています。」



〈クアンシー村保健センター〉

こちらのクアンシー村は上記 2 つの村に比べると少し都会という位置づけです。保健センターは 24 時間体制（医者とナース 6 名勤務。内 3 名はボランティアスタッフ）で定期健診も毎月対応しており、住民のワクチン接種・健康に関する意識が高いと言われております。

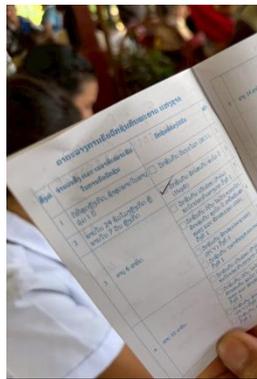
クアンシー村は人口約 2,200 人で 560 世帯が住んでいるそうです。小学校在籍者は 240 人でほとんどの住民は農業（キャッサバ・落花生・米・コーヒー）で生計を立てています。主な輸出先はベトナム・中国です。保健センターは 24 時間体制ですが、十分な医療器具があるわけではない為救急や帝王切開の場合は郡病院・県病院に搬送されます。

医者やナースのボランティアスタッフは、副業で農業をして現金を稼ぎ、求人（正社員になれる機会）を待っている状況が続いているとのこと。

単純な比較はできませんが、日本の現状（企業側の人材不足）とは逆の現象が起きています。



↑しっかりと冷蔵庫にて適正温度で保管されている経口ポリオワクチンの様子



↑ 母子手帳もありました

↑ 村で出会った 16 歳のママたち



〈ポリオワクチン接種の様子〉



〈スパンナの想い〉

私自身がポリオを患っていますので、「この子たちが大きくなった時、私のようにポリオになってほしくない、私のように障がいを抱えて生きてほしくない」と願いました。

自分の足で、実際に村々を回って子供にワクチンを接種できたことがとても嬉しい気持ちでした。

将来、元気に育ってたくさん勉強して夢を持ってほしいと感じました。

〈レイの想い〉

ラオス現地に赴き、乳児に直接ワクチン接種ができたことにとっても感動しました。なぜなら、経口ワクチンをたった2滴投与するだけでこの赤ちゃんは将来ポリオという病気から免れることができるからです。私には現在2人の子どもがおります。一人の母親として、そして私自身ポリオ後遺症が残る身として、このワクチンが乳児にとって非常に重要であることを明確に理解しています。未来ある全ての赤ちゃんは、私たち皆からの保護と支援を受けるべきだと再認識させられました。

〈スレイマオの想い〉

ずっと参加してみたい「自分の手で命を守りたい」と思っていた支援活動に参加できたことが嬉しかったです。実際に赤ちゃんに会って、ポリオワクチンを接種した時、「ああ、ワクチンを接種したこの子はポリオにかかることはないんだな、元気に育っていくんだな」と実感し、とても感動しました。私は足が片方なく義足で生活しています。「人生終わった」と絶望に陥ったことなんて何度もあります。でも今では、一人じゃない！どこからでも人生やり直せると前向きになれています。未来ある赤ちゃんたちが平和に楽しく暮らせることを願います。

〈番外編①ラオス国のコーヒー事情〉

ラオス国は実は、東南アジアでも有数のコーヒー生産国です。フランス植民地時代に栽培が始まりました。

特に南部のボラベン高原は、標高 1,000~1,300m の冷涼な気候で高品質なアラビカ種が育ちます。香りがよく、酸味が穏やかでコクがあるのが特徴です。

現地ではみなさん練乳・コンデンスミルクを入れて甘くして飲んでいました。

最終日にみんなで寄った「jhai コーヒー」は地球の歩き方にも掲載されるほど有名店でした。



〈ポンサード小学校訪問〉

ポンサード村の小学校を訪問しました。全校生徒 217 名でみんな元気いっぱいでした。私たちスタッフ（外国人）と出会ったことがないのかもしれませんが、最初はとってもおとなしくシャイな子たちが多かったです。時間が経つにつれカメラに映りたいモードに突入していました。笑

小学 4 年生の女の子と男の子に将来の夢を聞いてみました★

女の子は「お医者さん」男の子は「パイロット」だそうです。周りの女の子たちもみんな次々に「私は先生！」「私もお医者さん！」「お母さんの手伝い！」等答えてくれていました。



〈パノンタイ小学校訪問〉

ノンビエン村にあるこちらの小学校は全校生徒 148 人で幼稚園～小学校 5 年生までが一緒の校舎で学んでいます。フランス政府からの支援で建てられた校舎でした。

ポンサード小学校同様に、古着 de ワクチン運営事務局からは「クレヨンとノートブック」をプレゼントさせていただきました。

特に女の子たちは興味津々で喜んでくれました！男の子はスタッフとのかけっこ競争に夢中…。

最後は全員、校庭で校歌を大合唱して披露してくれました♪



〈チャンパーサクコミュニティ病院 ノンビエン村〉

チャンパーサク郡全体、隣の郡からも来院がある比較的大きな病院。ワクチンや出産費用はかからない。院長は「資金不足の影響で故障したレントゲンやエコー機材を修繕することもできない。消毒の種類も充分ではない。もっと機材や薬を取り扱うことができれば救える命が増える」とコメントされていました。



今回一緒に支援活動に参加した「ラオス女性障がい者支援団体」の理事長（着物 de お針子で協業している団体）は、彼女自身が医師でありポリオ障がい者です。

理事長は自分の経験を元に、病院に来ている妊婦や母親に、ワクチンの重要性を伝え、現地の母親たちは熱心に話を聞いていました。



〈バチエン郡地域病院〉

こちらの病院では1か月約30名が出産している状況。2025年1歳未満の子は150名、内102名のワクチン接種が完了しており、約68%の接種率となっています。帝王切開などには対応していないため、もし必要があれば30km離れたパクセー県病院へ行く必要があります。ラオス国では医者も看護師も公務員扱いとなります。その為政府予算が決まっており公募がないと仕事をする事ができない現実です。



〈番外編②〉世界遺産ワット・プー遺跡

ワット・プー遺跡は、ラオス国南部にある古代寺院で、2001年にユネスコの世界遺産に登録されています。8~13世紀頃にクメール王朝によって建てられ、ヒンドゥー教の聖地として栄えました。緑豊かな山のふもとに建つ石造りの寺院はとても美しく、自然と調和した景観が印象的です。現在は仏教寺院としても大切に守られています。スクールも止み、見事に快晴のタイミングで訪れることができました。各メンバーが車椅子を持ち上げながら・義足と歩行器具を使いこなし険しい階段もたくましく登っていました。



〈番外編③タートファーンの滝〉



タート・ファーンの滝は、ボラヴェン高原にある高さ約120メートルの二本の滝です。緑豊かな森の中を流れ落ちる姿が美しく、ラオス国を代表する名所のひとつです。当日は運よく虹も見ることができました★スレイマオとспанナは見たことのない景色に大興奮！滝を前に映え写真を一生懸命撮っていました。

SNS 映え意識女子は世界共通ですね。

ここまでラオス国支援活動の報告書をお読みいただき感謝申し上げます。



2025年4月よりラオス国政府と直接協定を結ぶことができ、より多くの子どもたちにワクチンを贈ることができております。ひとえに古着 de ワクチンをご利用いただいているお客様のおかげです。いつも応援をありがとうございます。

前回ラオス国を訪れた2023年はコロナの面影が少し残る社会情勢でした。今年はその様子もなく、ワクチン接種率も上昇しており一安心です。

ラオス国だけではなく、開発途上国の資金面や衛生の問題などは少なくありません。

私たち古着 de ワクチン運営事務局としてできることを一步一步実現していきます。



その他、姉妹シリーズ「着物 de お針子」や「キッチン de 給食」、加えて「ランドセル」「キッズ&ベイビー」版など特化型のお片づけ商品もリリース予定です。

(今回支援活動と一緒に参加して下さったラオス国女性障がい者支援団体は弊社お針子事業で今後も協業してまいります。滞在最終日メンバー全員と決起集会を行いました。)

これら事業を通して「モノを捨てずに活かす」ことを軸に、世界中の障がいのある方の自立支援をサポートしてまいります。

最後に、今回初めて支援活動に参加したスレイマオとスパンナのインタビュー動画を載せさせていただきます。彼女たちの想いを生の声で是非お聞きください。



支援活動中にリアルタイムで撮影！

2人のインタビュー



スタッフの日常を発信中！

公式Instagram



@NRS_STAFFDIARY

2025年10月 日本リユースシステム株式会社

古着 de ワクチン運営責任者 辻本真子